東栗原の子ども(R5年度変更点です。ご確認ください。)

がこう。ことはなり、またない。することははしょ。 学校はお友達や先生と過ごす場所です。お家の方と一緒に「東栗原の 子ども」をたしかめ、集団生活の約束を守りましょう。

【登下校】

- ・登下校時は校帽をかぶります。
- ・登校時間 (8時00分~**8時10分**) に、通学路を持って登校します。
- ・**8時15分以降**は北門から入ります
- ・蒙を出たら、芸れ物をしても蒙に取りに帰りません。
- ・下校時刻を守ります。 最終下校は **15時30分**です。

【服装・持ち物】

- ・校内では、左胸に名札を付けます。
- ・全ての持ち物に名前を書きます。
- ・学校生活にふさわしい身なりで過ごします。 ブーツ型や厚底の靴ではなく、運動にふさわしい外靴をはきます。 茶髪やパーマ等は禁止です。 かみの毛が長い人は、安全なヘアゴムでかみの毛を結わきます。
- ハンカチ、ティッシュをいつも身につけます。

ポケットがない服の場合、臓まわりに付けるポーチを使ってもいいです。 肩からかけるポーチは安全上使いません。

- ・保冷剤や使い捨てカイロはが必要な時は、直接手で持たず、使用方法を守り ます。(友達への貸し借りはしません)
- ・タブレット端末は学習に使います。

家で充電し、参考に気を付けてランドセルやカバンに入れて毎日持ち運びます。

・学習に必要なものは学校に置いておきます。 復習や手入れ(筆やリコーダー)など ひつようときしひつようしものしもちかえります。必要な時に必要な物を持ち帰ります。

【学習】

タブレット端末は図書室の本と同じように、足立区から借りているものです。卒業後は、これ から東栗原小学校へ入学してくる友達が使います。ルールを守り、大切に使いましょう。

- ・筆箱は学習にふさわしい箱型のものを使います。
- ・学校では、鉛筆・色鉛筆・名前ペンを使います。
- ・学習に必要でないものは学校に持って来ません。 ボールペン、シャープペンシル、メモ・帳、色付きや香り付きの消しゴム、手鏡、 髪をとかすもの等を持って来ません。
- ・学習に必要な物は忘れずに用意します。

【遊び】

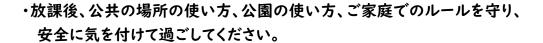
- ・20分休み・昼休み、天気のよい日は校庭に出て、体をうごかします。
- ・砂のところで遊びます。コンクリートのところでは、歩きます。
- ・校舎の裏や体育館、プールの裏、防球ネットでは遊びません。
- ・雨の日は室内で静かに過ごします。

【生活】

- ・いじわるをしたり、悪口を言ったりしないで友達となかよくします
- ・友達と問題が起きた時は、話し合いで解決します。
- ・チャイムの合図を守ります。
- ・廊下は右側を歩きます。教室を移動する時は、他の教室にめいわくをかけな いように並んで静かに歩きます。
- トイレは次の人のことを考えてきれいに使います。
- ・水筒の中身は麦茶、白湯、水です。水筒は直接手に持たず、肩からかけるケース に入れます。
- ・登校時、トイレの後、給食の前、休み時間の後、活動後には右けんで手洗い をします。

【保護者の皆様へのお願い】

- ・遅刻、早退時は事前に学校への連絡、保護者の方の付き添いをお願いします。
- ・学校に忘れ物を取りに来るときは、保護者の方の付き添いをお願いします。。
- ・無記名の落し物は、保護者会まで中央昇降口に展示します。ご確認ください。
- ・タブレット端末は家での充電をお願いいたします。
- ・リップクリームやハンドクリームが必要な時は、事前に担任までお知らせく ださい。(薬用・無香料のものをご用意ください)
- 子供だけでお金を使いません。
- ・不審者に遭遇した時は、速やかにお家の方、コンビニエンスストア、こども 110 番の家の方から<u>速やかに 110 番</u>してください。



<足立区 タブレット端末活用の主なルール 家庭学習編>

- ・宿題や授業の予復習等、学校との情報連絡、学習に使用します。
- ・飲食をしながら使用しません。
- ・家庭と学校、こども支援センターげんき、区内学童保育室、児童館以外には持ち出しません。
- ・30分に一回は使用を止め、休憩をします。
- ・個人情報や誹謗・中傷はインターネットに書き込みません。

足立区では、お子様の健康や安全・安心を確保するため、「午後10時から 午前6時まで」を「インターネット利用不可の時間」として設定しています。

【自転車の乗り方道路交通法より】

自転車を運転するすべての人がヘルメットをかぶることに努めなければならないのはもちろんのこと、同乗する方にもヘルメットをかぶらせるように努めなければなりません。また、保護者等の方は、児童や幼児が

自転車を運転する際は、ヘルメットをかぶらせるよう 努めなければなりません。